

世界ジオパーク認定後の糸魚川ジオパークの取り組み

Working and achievements of the Itoigawa Geopark as the first Japanese Global Geopark

岩崎 良之^{1*}, 大嶋 利幸¹, 斉藤 清一¹, 関沢 仁¹, 渡辺 直志¹, 宮島 宏¹, 竹之内 耕¹,
茨木 洋介¹, 鳥越 寛子¹

Yoshiyuki Iwasaki^{1*}, Toshiyuki Oshima¹, Seiichi Saito¹, Hitoshi Sekizawa¹, Naoshi Watanabe¹,
Hiroshi Miyajima¹, Ko Takenouchi¹, Yousuke Ibaraki¹, Hiroko Torigoe¹

¹糸魚川市ジオパーク推進室

¹Itoigawa Geopark Promotion Office

2009年8月22日に、糸魚川ジオパークは、洞爺湖有珠山（北海道）・島原半島（長崎県）とともに、日本最初の世界ジオパークに認定された。糸魚川ジオパークでは、この認定を契機として、さらに使いやすいジオパークをめざし、世界ジオパークネットワーク調査団のアドバイスや世界ジオパークネットワークの自己評価票の点検項目を参考に改善作業をすすめている。

ジオパークは、大地の諸事象を総合的かつ系統的に学習する場所である。学習する場所であるがゆえに、教育的に配慮された学習システムと来訪者が快適に滞在できる旅行システムの両立が不可欠であり、それらは糸魚川に住む市民や団体によって支えられるものである。市民や団体の自発的なジオパーク活動への参加を誘いつつ、学習と旅行の両システムの確立が急がれる。これまでの試行錯誤の経験は、一つ一つが貴重な財産になっている。

以下に取り組みの概要を報告する。

（1）世界ジオパーク認定後の効果

糸魚川ジオパークには、ジオパークの情報センターである地球博物館フォッサマグナミュージアムがある。認定直後から3月末まで、昨年比で約1万人の入館者増があった。ジオサイトをめぐる定期観光バス（25人定員、11月まで土・日・祝日運行）の乗車率は、認定前年の47%から59%へと増大した。

（2）世界ジオパーク認定記念事業

ジオパークを運営し、地域の活性化につなげていく上で、より多くの市民のパワーが不可欠である。ジオパークの周知のため下記の啓発事業を行い、市民へジオパークがさらに浸透し、ジオパークに関わる市民や団体を増やすことができた。

おもしろ石コンクール、世界認定記念フォーラム（記念講演会）、マスコットキャラクター、子ども学迎員など

（3）市民・団体によるジオパーク関連事業

ジオクーポン（4つのジオサイト連携型）、ジオパーク号運転（JR大糸線・ジオサイトガイド付き）、フェスティバル in レンガ車庫（糸魚川レンガ車庫保存・活用研究会ほか）ジオパークカップ（糸魚川ジュニアサッカークラブ）、24ジオサイト井等ジオパーク関連商品開発など

（4）糸魚川ジオパーク協議会の事業

糸魚川ジオパーク検定初級編、糸魚川ジオパークニュースレター、ジオパークガイドの認定制度の構築、マスメディアによる紹介（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット）、ジオパーク展（箱根小涌園、日本大学、新潟大学）、ジオパーク切手・年賀ハガキ、ガイド講習会への支援、ジオサイトの野外解説板・ガイドブックの作成、ホームページの改良、香港ジオパークとの姉妹ジオパーク提携など

（5）小回りの利く組織体制

ジオパークの運営母体である糸魚川ジオパーク協議会は、各団体・機関などの代表からなり、総務企画部会、ツーリズム部会、教育研究部会がある。多くの課題があるので、部会横断型の小回りの利くワーキンググループを設置し、緊急性の高い課題を検討している。

キーワード:糸魚川ジオパーク,世界ジオパーク,市民の活動

Keywords: Itoigawa Geopark, Global Geopark, citizen's activities